

石川県立美術館だより

平成11年6月1日発行 第188号

ペルー移民100周年記念 ペルー国立人類考古学博物館・アンデス聖地博物館所蔵

悠久の大インカ展

哀しみの美少女フワニータ

5月29日(土)～6月20日(日)会期中無休



人型飾り板 紀元前3世紀～紀元3世紀
ペルー国立人類考古学博物館蔵

主催 / 北國新聞社・富山新聞社 共催 / 石川県立美術館

目次

悠久の大インカ展 哀しみの美少女フワニータ ...2
能面と能装束（前田育徳会展示室）3
能面と能装束（第2展示室）3
常設展示室 主な出品作品4
展覧会回顧、貸出中の所蔵品5

企画展示室、各地の展覧会	6
美術館の本、県美Q&A	6
企画展TOPIC（宮本三郎）	7
六月の行事案内、ミュージアムグッズ紹介	7
所蔵品紹介、次回の展覧会	8



フワニータ 15～16世紀

企画展示室(第7～9展示室) ペルー移民100周年記念 悠久の大インカ展

哀しみの美少女フワニータ

5月29日(土)～6月20日(日)会期中無休

主催/北國新聞社・富山新聞社 共催/石川県立美術館

後援/外務省・文化庁・ペルー共和国大使館・石川県・石川県教育委員会

NHK金沢放送局・テレビ金沢・エフエム石川・ラジオ金沢・ラジオこまつ
ラジオななほ・金沢ケーブルテレビ放送

ペルーは、地球上で日本のほぼ反対側に位置する遠い国です。しかし日系のアルベルト・フジモリ氏が大統領ということもあって、日本との結びつきがひととき強い国の一つです。そして一九九九年は、日本から最初の移民団が、ペルーのカヤオ港へ上陸した年から数えて、ちょうど一〇〇年に当たる記念の年でもあります。

山頂に雪をいただく六、〇〇〇メートル以上の峰々を連ねたアンデス山脈が縦に走る南米大陸は、古来、人類史上に足跡を遺す数多くの文化が栄えた地でもありました。しかもナスカの地上絵など、未だ全容が解明されておらずに謎に包まれた事象が多数存在し、古代文化への夢と情熱をかきたてる魅力にあふれています。

本展覧会は、ペルー移民一〇〇年を記念し、日本とペルーとの文化交流を目的に企画され、アンパト山の頂で発見された少女のミイラ「フワニータ」を中心とした歴史的文化財の数々によって、次のように構成されています。

第一章 悠久のアンデス文明とその遺産

PART1 神々との対話

黄金文化 黄金に滅ぼされた文明

PART2 くらしの道具

日々のくらし 生活調度品の歴史

PART3 土器

土器の変遷 いけにえの表現

PART4 織りもの

織りと色彩 文字なき文明

第二章 哀しみの少女フワニータ

フワニータと副葬の品々

一四四〇年から一四五〇年の間に、ミステイ山が噴火し、インカの主要都市アレキパが完全に破壊さ



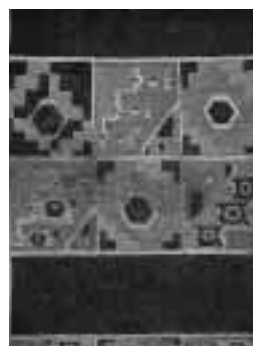
金の仮面 10～14世紀



櫛 15～16世紀



深鉢 2～9世紀



つづれ織り 7～11世紀



金の羽飾り 15～16世紀

れた、ということがスペイン人の年代記に記録されています。アンパト山で凍結したまま発見された少女「フワニータ」は、ミステイ山噴火を鎮めるために、「いけにえ」として、その幼い命を神に捧げられたものと推定されています。

本展の開催により、インカ文明をはじめとするペルーの文化を紹介することで、一人でも多くの方々にペルーへの興味と理解を深めていただき、両国の友好関係の促進に役立つことを願っています。

本ページ掲載写真の内、「フワニータ」と「金の羽飾り」はアンデス聖地博物館蔵、その他はペルー国立人類考古学博物館蔵です。

観覧料

個 人	一般
	1,200円
	中高生 1,000円
学 生	小学生
	800円
	中学生 700円
団 体 (20名以上)	一般
	900円
	小学生 500円

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金で観覧になれます。

企画展示室 前田育徳会展示室)

特別陳列

—幽玄の世界— 能面と能装束

5月28日(金)~6月29日(火)

能楽は、古くは散楽あるいは猿楽と呼ばれ、室町時代の初頭、著しく発達しました。名手観阿弥の演能は、將軍足利義満に認められ、その保護のもとに観阿弥の子世阿弥元清により、いわゆる「幽玄な能」として大成形式化されました。

加賀・能登における能楽の源流は、十四世紀頃の白山猿楽座の神事能までさかのぼることができます。また足利幕府の加賀の守護としての富樫家は、金春流の諸橋大夫を抱えて扶持を与えています。一方、能登の守護である畠山家や、その被官であった遊佐家、長家では、近江の日吉大夫、大和の金春大夫、宮王大夫などを招いて能興行をしていることが知られます。

近世における加賀藩の能の繁栄は、桃山時代の藩祖前田利家の能好きに端を発しています。利家は、金春流、観世流の大夫から稽古を受け、また宝生大夫を陣中に随伴するなど深く能に傾倒しました。三代藩主利常は、金春流の竹田権兵衛や宝生大夫などを召し抱えています。しかし五代藩主綱紀は、九代宝生大夫將監友春を召し抱え、宝生流に改め、竹田権兵衛以外の役者には改流を命じました。以後、能を愛好した藩主が続き、幕末まで能役者を保護しています。

なお加賀藩では、細工所の職人たちにも能楽の一部を兼芸させ、教養を深めさせると同時に能の人材として育成し、また領内の士庶たちにも奨励しています。そして「加賀宝生」といわれるほど宝生流が盛んとなりました。

さて今回は、能面十一面、面箱一合、能装束七領、能装束地紋図一巻、計二十点を公開します。

前田育徳会展示室と合わせ両室で、前田家伝来の能面と能装束を展示します。

江戸時代に武家の式楽として発達した能は、加賀藩主前田家においても、初代利家の能好きに端を発し、その後も代々の藩主が能を愛好し、金沢は「加賀宝生」と言われるまでの土地柄となりました。

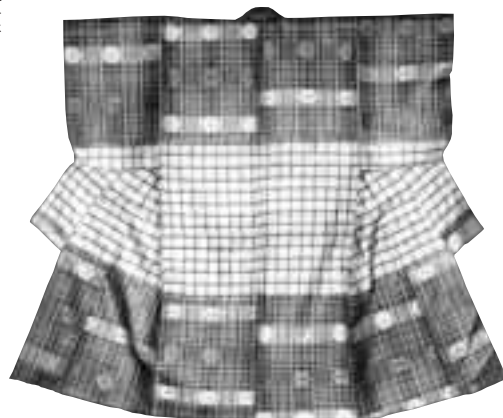
能の幽玄な雰囲気は、能面と能装束の高貴な美しさにあります。今回展示の能面は、「翁」で狂言方が務める三番叟に用いる「黒色尉」や、神の化身で最も品格のある「小尉」、中国の想像上の動物で、酒を好む妖精を主人公とした祝言の能に用いる「狸々」、ほかには、「景清」、「俊寛」、「曲見」、「姥」など十面です。

能装束は、銀糸を織り込んだ地に唐花を全面に散らした上品な趣の「銀地唐花文唐織」や、ハページの所蔵品紹介に取り上げた「桃色地山道文摺箔」、鮮やかな格子地に菊と向蝶文を上文として織りだした「茶萌黄紅中格子菊蝶文厚板」、蜀江錦、双龍文、立涌唐花文の三種の裂を接ぎ合わせて作られた見事な「唐織唐草紫地金龍萌黄地唐花文継合側次」など九点です。なお、大正時代の目録には五二五領の能装束が記載されていたようですが、藩政時代はその量においても質においても、桁外れに豪華であったことは言うまでもありません。



黒色尉

ありません。ここに展示する作品はそこごく一部にすぎませんが、幽玄の世界の雰囲気味わっていただければ幸いです。



茶萌黄紅中格子菊蝶文厚板

企画展示室 第2展示室)

特集

—幽玄の世界—

前田家伝来

能面と能装束

5月28日(金)~6月29日(火)

常設展示室

主な展示作品

5月28日(金)~6月29日(火)

● = 国宝 = 重要文化財 ○ = 重要美術品
□ = 石川県指定文化財



早春の岸边 森本仁平



口色絵鳳凰図平鉢

前田育徳会展示室

特別陳列 — 幽玄の世界 — 能面と能装束

能面

大喝色

小面

般若

真蛇

茶金色地牡丹唐草模様
縹子地金雲からす模様
摺箔

第1展示室

● 色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

第2展示室

古九谷

○ 色絵布袋図平鉢

□ 色絵鳳凰図平鉢

□ 青手樹木図平鉢

特集 — 幽玄の世界 — 前田家伝来

能面と能装束

黒色能面
猿見
曲見

能装束

銀地唐花文唐織
桃色地山道文摺箔

第3・4展示室(油彩画・彫塑・造形)

油彩画

酔って候

ブラス・ジオルジュ・グラモン

立つ裸婦

セーヌ川遠望

ペギーの道

印度の女

裸女達に捧ぐ

鴨居 玲
北濱 淳
高光 一也
田辺栄次郎
藤本東一良
南 政善
宮本三郎

早春の岸边
彫塑・造形

落下

接吻スルノガイイノダ

大地悠久

第5展示室(工芸)

特集 石川の伝統工芸展第40回協賛
石川県ゆかりの人間国宝を中心に

陶磁

色絵更紗文蓋付飾壺

彩釉鉢

漆工

平文円舞箱

菱文時絵平卓

染色

友禅訪問着「群鳥惜春」

牡丹

金工・木工・截金

砂張三象花入

黒柿造食籠

第6展示室(日本画)

山里

駱駝

月下佳人

梅雨明

丘の家族

蓮

寂寞

残照

このページでは主な展示作品を掲載しています。各室ではこれらのほかに多数の作品が展示されています。(第1展示室は色絵雉香炉二点のみ)

観覧料(特別陳列を含む)

一般	個人	団体(20名以上)
350円	大学生 280円	一般 280円
高校生以下は無料		大学生 220円
		高校生以下は無料

森本仁平

久世建二

中村錦平

南雲 龍

三代徳田八十吉

富本憲吉

大場松魚

松田権六

羽田登喜男

木村雨山

魚住為楽

川北良造

西出大三

石川 義

上田珪草

梅川三省

畠山錦成

羽根万象

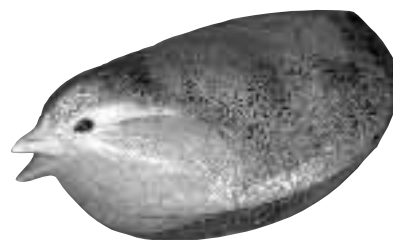
浜出青松

原田太乙

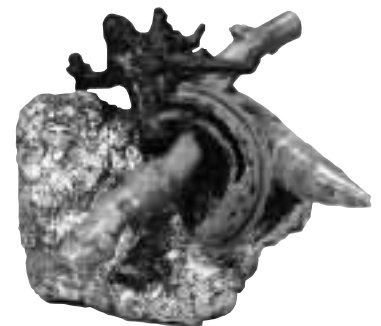
曲子光男



駱駝 上田珪草



截金彩色木彫合子「華鳥」 西出大三



接吻スルノガイイノダ 中村錦平

展覧会回顧

―阿南市正福寺所蔵―

加賀染絵観音尊像

三月三日から二十六日までの三週間という短い期間でしたが、徳島県阿南市正福寺所蔵の「加賀染絵観音尊像」三十一幅を展示しました。平成十年度の特別陳列ではありますが、第2展示室に古九谷とともに並ぶものですから、特別なポスターやチラシなどもなく、大きく宣伝してはいなかったにもかかわらず、加賀藩の御用紺屋太郎田屋與右衛門作、加賀友禅の源流の染絵掛幅が、久しぶりに公開されるということで予想外に多くの反響が得られました。

平成二年に発見された際に、金沢で公開したことを覚えていた方々から、展覧会が開く前から電話で問い合わせをいただき、その関心の高さに少なからず驚かされたとともに、発見された当時、どれだけ注目されたものだったのか、改めて感じ取ることができました。また、昨年四月の百済観音の余波が大きかったと見え、仏像の展示なのかという問い合わせもありましたが、加賀染絵での観音尊像だと説明すると、興味を持って下さる方もあったことは嬉しい限りでした。

徳島県指定文化財のこの作品は、西国三十三ヶ寺の本尊像を染絵で表したもので、長い年月を経て二幅失われてしまいました。保存状態が良かったために褪色が殆どなく、ほぼ当時の色彩を保っています。一枚の絹地に、表具の裂地も尊像も染絵で表して、それを紙に数力所仮留めした状態であったために、あまり出されることもなく、結果として外光にさらされる機会が殆どなかったことが幸いしたのですが、きちんと表装した掛軸を三十一幅掛けるのとは違って、展示も撤収も思ったより時間がかかってしまうものでした。

糸目糊の繊細な線と柔らかな色彩を駆使したその絵柄は、見る者の心を洗い流す優しさにあふれたものですが、展示し終わった後に、展示室の五分の三を占め

る三十一幅の観音像を見ると、三十三カ所の寺を巡礼した人々の信仰心まで感じさせる圧倒的な存在感があり、あらかじめ図版で確認していたにもかかわらず、それそれをつぶさに見て違いを確認しながら、見たいという好奇心を刺激されるものでした。

そんなこともあって、この展示のために白黒写真八枚を抜粋して掲載したA4判一枚の目録を作成しましたが、来館したお客様から、三十一面すべてをカラーで掲載した図録はないのか、という問い合わせもいただき、自分が来館者であれば同じことを聞きたろうと思いました。それに複数で一揃いという状態で展示してあるものは、興味がある方にとっては、覚えとなる目録や図録で、後日確認したいと思うでしょうし、次回まとめて展示する機会があれば、全三十一幅をカラーで掲載する印刷物が発行できるよう、努力したいと思います。

最後になりましたが、今回の展示について貴重な寺宝のご出品を快くご承諾いただいた上に、初日の三月三日にはご夫妻で来館していただいた正福寺住職・篠原寛親氏に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。
(寺川 和子 学芸員)



六番 千手観音



一番 如意輪観音

貸出中の所蔵品

線刻八重葎文鉢

二代呉藤友乗作

萌春時絵水指

寺井直次作

朝露時絵香合

寺井直次作

漆盛器「叢」

寺井直次作

草文時絵小 筒

二代砺波宗斎作

色漆蝶に唐草文小 筒

計六点

貸出先 石川県輪島漆芸美術館（輪島市）

展覧会 「虫たちの囁き」

六月二十一日（月）まで

和歌扇面画賛

本阿弥光悦作

計一点

貸出先 サントリー美術館（東京都）

展覧会 「光悦と宗達」

六月二日（火）七月十一日（日）

友禅訪問着「蒼林の譜」

友禅訪問着「白藤」

友禅訪問着「寂」

友禅訪問着「創生」

友禅訪問着「群」

友禅訪問着「爽」

友禅訪問着「芽」

友禅訪問着「ふみ月」

友禅訪問着「孔雀サボテン」

以上すべて水野博作 計十点

貸出先 富山県水墨美術館（富山市）

展覧会 「染―郷土の染色作家 松原定吉 般若侑弘、水野博展」

六月四日（金）七月四日（日）

□色絵鶏草花図平鉢 古九谷 （□県指定文化財）

色絵牡丹文平鉢 古九谷

計二点

貸出先 小松市立本陣記念美術館

展覧会 「九谷焼再発見」

六月五日（土）七月二十五日（日）

（美術館の本）

石川県立美術館所蔵品図録	税込定価(円)三、五〇〇
前田育徳会展示室 開館記念名宝展	一、五〇〇
― 古典と現代 ― 花鳥風月展	一、五〇〇
西山英雄展 雄大な自然を描く日本画の巨匠	二、〇〇〇
石川県の工芸 ― 江戸時代から現代まで ―	二、〇〇〇
石川県の人間国宝展	二、〇〇〇
― 前田育徳会の名宝 ― 百工比照	一、五〇〇
四巨匠 中川一政・宮本三郎・高光一也・南政善の世界	二、〇〇〇
蒔絵・人間国宝 寺井直次の世界	二、〇〇〇
― 没後10年 ― 高光一也展	二、〇〇〇
― 石川県立美術館所蔵 ― 茶道美術名品図録	二、五〇〇
加賀藩二代藩主前田利長の菩提寺 瑞龍寺展	二、三〇〇
15〜20世紀のロシア美術 イコンと絵画	二、〇〇〇
日本のわざ ― 墨無形文化財とそれを支える人々 ―	二、〇〇〇
前田利為と尊經閣文庫	二、〇〇〇
墨の表情 ― 近代日本画にみる名作 ―	一、八〇〇
工芸作品と図案 ― 創造への思考 ―	二、〇〇〇
前田利為 400年 利永がまた 桃山時代の美術(最新刊) 二、五〇〇	
ミニージャムショップで販売中!!	
郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。	
(☎ 〇七六―二三一―七五八〇)	

企画展示室

第85回記念 光風会展 金沢展

六月二十五日(金)〜二十九日(火)
(第7・8・9展示室)

明治洋画壇に新風をまき起こした白馬会を源に、黒田清輝、藤島武二ら幾多の著名画家を輩出した光風会は、大正元年の創立で、数多い美術界にあって最も古く、豊かな歴史と伝統をもつ美術団体です。そのモットー・主張は具象を基本にしながらも常に新しいレアリズムの追求に情熱を燃やし続けることです。

今回の金沢展は今春東京都立美術館で開催された中から基本作品百十一点と本県在住作家の作品三十八点、計百四十九点を展示いたします。本展は夏の金沢市における恒例の行事の一つとして、また今日では多くの北陸の美術ファンから期待され親しまれる展覧会となっています。

各地の展覧会

六月

開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。	
日本画の偉才 横山操展	5/29〜7/11
東京国立近代美術館(東京都千代田区・〇三三二四―二五六)	
よみがえる ― 宮本三郎 25年の眠りから覚めて	7/4まで
世田谷美術館(東京都世田谷区・〇二三四一五六一)	
水の物語 ― ヨーロッパ絵画にみる神話と象徴	5/22〜6/27
神奈川県立近代美術館(鎌倉市・〇四六七一―二五〇〇)	
染 郷土の染色作家 松原定吉 般若僧弘 水野博展	6/4〜7/4
富山県水郷美術館(富山市・〇七六四一三一三七一九)	
MOA美術館名品展 ― 日本の美とこころ ―	5/28〜6/20
福井県立美術館(〇七七一―五〇四五)	
Donald・ジャッド 1960-1991	5/22〜7/11
滋賀県立近代美術館(大津市・〇七七五四二二二)	
生誕110年・没後20年記念展 小野竹喬	6/18〜7/25
京都国立近代美術館(京都市左京区・〇七五七六四二二)	
西遊記のシルクロード 三蔵法師の道	6/12〜8/8
奈良県立美術館(奈良市・〇七四二二二三三九六)	

主な出品者

中央作家 寺島龍一(芸術院会員)

故 藤本東一良(芸術院会員 遺作)

樽松正利(理事)

地元作家 堀友三郎(理事 工芸)

円地信二 松本 昇

谷 昭二 井田重男

金丸水明(工芸)

入場料

一般 七〇〇円(五〇〇円)
大高生 四〇〇円(三〇〇円) 中小生無料

() 内は団体料金

当館友の会会員は会員証提示により団体料金

連絡先 金沢市窪一三十一

光風会石川連絡所 細川紘嗣
☎ 〇七六―二四一―一三七〇

Q 休館日はいつ?

美術館は月曜日や祝日の翌日でもないのに休館していることがあり、知らずに行つてがっかりすることがあります。休館日はどのようなになっているのですか。

A

当館には特定曜日の休館日(定休日)がありません。展覧会開催中は無休で開館しています。そこで展覧会終了後、作品の展示替えが行われる時には、曜日に関係なく休館となるのです。ただし年末年始(十二月二十八日〜一月三日)だけは例年お休みをいただいています。本紙では毎月この休館日をお知らせしておりますし、「展覧会案内」には年間の休館日がすべて掲載されていますので、どうか必ずご確認の上ご来館下さい。

Q 床に響く靴音

静かにゆつたりと作品鑑賞をしたいのに、床に響く靴音が気になることがあります。床は絨毯敷きの方がいいと思うのですが…。

A

靴音防止には、確かに絨毯の方が効果があると思いますし、古美術部門の展示室は開館当初より絨毯敷きです。しかし他の展示室は、一時期に数万人が入室するような大型企画展の会場となることが多いのです。絨毯では逆に外から持ち込まれた砂や小石などが詰まりやすい、ほこりも立ちやすいなどの弊害が予想されました。そこで使用しているのが現在のゴムタイルです。これは他の床材に比べ、靴音が小さくなることと、足が疲れないことから採用したものです。また彫刻等展示作品の安定性も考慮しています。快適な環境で鑑賞できるよう今後とも努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

県美 Q&A

企画展TOPIC

戦前の宮本三郎 ―第一のピーク―

今回は戦前の若き宮本三郎についてお伝えいたしまし
しょう。まず上京までの経緯をざっと述べますと、大
正九年、小松中学（現小松高等学校）在学中に陸軍幼
年学校を受け、体格検査で失格。次いで、画家を目指
して退学、十七歳で上京。川端画学校に籍を置き、関
東大震災を間にはさみ、苦学して絵を学びます。
在野団体の雄、二科会に出品し、安井曾太郎に私淑
するのが二十二歳頃。めきめきと頭角を現し、昭和十
年に、この時期を代表し、現在は小松市の宮本三郎記
念館のメイン壁面を飾る『婦女三容』を
描き、翌年三十一歳
で二科会会員となり
ます。



赤いクッション 昭和10年

後に宮本は『私の
作画について』とい
う、画家自身が五十
年の画業を振り返っ
て記した一文を残し
ます。文中、「二十
歳代の後半から三十
歳の初めに、或る様
式と、或る方向を見
出し得て、私の作画
が活気づくのである
が」という、この宮
本にとつての最初の
ピークが、ここで述
べる時期にあたるわ
けです。

前田寛二調の暗くアンニュイな作風を経て、青灰色
を基調とする安井曾太郎風の画面を見せるのが、若
き宮本の第一のピーク時で、すらすらと淀みなく筆は
冴え渡っています。こうした若描きの作品の持つ魅力
というのは、後年いかに技術が上達しようが、二度と
手にすることの出来ない初発のうっすらしたさを感じさ

せるものです。

それにしても三十歳で会員というのは、画家の数は
現在とは比較にならないとしても、早い。実は宮本自
身の好調期に重なり、画壇が大変革期にあったのでし
た。昭和十年から十二年までの帝展改組とそれに伴つ
新団体の結成という洋画壇未曾有の再編期にぶつかつ
たことは、若手が上にのして行くには全くのグットタ
イミングだったといえましょう。

さて、先ほどの『私の作画について』ですが、ピー
ク時を語る直前に、「こういう文章がつづられていま
す。私の五十年はまた「時代」という魔物の強圧に
出来るような自分の中の「気質」の発見への模索にあ
つたかと思うが」

「時代という魔物……戦前期に新進画家として世
に出た誰もが直面し、対処して行かざるを得なくなる
昭和という時代。次回は従軍期の宮本三郎について述
べることにしましょう。

（二木伸一郎 学芸主査）

秋の企画展「没後25年 現実と幻想の巨匠 宮本三郎展」は
九月二十五日（土）から十月二十四日（日）まで開催の予定です。

六月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います。》

月 日	行 事	内 容	会 場
6 / 5 (土)	土曜講座	追悼 黒澤明(前) / 黒澤明を読む (寺尾健一 学芸専門員)	講義室
6 / 6 (日)	月例映画会	古代エジプト・遙かな原風景 ピラミッド空間の出現(23分)	ホール
6 / 12 (土)	土曜講座	『源氏物語』の意匠 1 (前田武輝 学芸主査)	講義室
6 / 13 (日)	月例映画会	古代エジプト・遙かな原風景 ッタンカーメン黄金幻想(23分)	ホール
6 / 19 (土)	土曜講座	追悼 黒澤明(中) / 黒澤明を見る (寺尾健一 学芸専門員)	講義室
6 / 20 (日)	CDコンサート	ーベートーヴェンの室内楽2ー	ホール
6 / 26 (土)	土曜講座	ヴァイオリンソナタ第4番ニ長調 Op.23ほか(約64分) (二木伸一郎 学芸主査)	講義室
6 / 27 (日)	月例映画会	世阿弥の能(48分)	ホール

展示替による全館休館日は六月三十日(水)・七月一日(木)です。

ミュージアムグッズ



紹介

色絵花笠香合

この香合は、「色絵花笠香合 野々村仁清作」の複製です。胴径六・九センチ、高さ六・二センチのほぼ実物とおなじ大きさで、土味も実物に近く、また、絵付けもよく似ており、本物と見まがうくらいの、誠によくできた複製品です。定価は二〇、〇〇〇円です。なお実作品は、幕末の加賀藩廻船御用商人 銭屋五兵衛の旧蔵品です。



桃色地山道文摺箔 能装束

前田家伝来

文化9年 1812

丈146.3 衿68.6 (cm)

立涌くずしを横に用いたような「山道」の感覚表現は、現代のデザインともいえるような新鮮な描写です。この横縞の構成は、筆描きのように細い太いがあり、即興的に描かれたように見えますが、注意してみると間隔のとり方や線の強弱に、苦心の跡がみられ、計算された一定のリズム感があります。縞模様の美しさは、線とその余白の調和ともいえますが、不定形の曲線で構成されたこの衣裳は、さながら山の道を歩いているようで変化のある趣があります。また幾重にも重なる山並のようにもみえ、雄大な広がりを感じさせます。包紙書付に「文化九年（一八一二）四月出来」と記されていますが、当時は江戸文化の爛熟期で、十二代藩主前田斉広^{なりなが}の時代です。文化八年（一八一）二月には金沢城二の丸造営成就の祝い、ならびに家督相続・入国祝いを含めた儀式能が六日間にわたり、盛大に行われました。その一ヶ月後の慰能をはじめとして、機会あることに斉広は自ら舞い、また側近に能を演じさせています。

摺箔は、女性の着付として用いられるものです。唐織の下に重なる白地に金、銀箔で文様を表した小袖ですが、まれに紅地やこのような桃色地があります。この作品は金箔で山道を表した衣裳で、鬼女の摺箔とすばらしい貴重な作品です。

次回の展覧会

特別陳列 前田家 名物裂の精華

七月二日(金)～二十七日(火)
(前田育徳会展示室)

前田育徳会が所蔵する名物裂のコレクションは、茶道に通じた三代藩主利常の収集品を基にしており、よく知られた裂地が多いことで知られています。今回は二十数点の作品でこの一部をご覧ください。

特集 古九谷・再興九谷名品展

七月二日(金)～二十七日(火)
(第2展示室)

江戸時代前期の古九谷から江戸時代後期の再興九谷諸窯まで、九谷焼の歴史的流れが学習できるよう意図した展示です。豪放雄大な古九谷から絢爛華麗な九谷庄三まで、九谷焼の美を堪能いただければ幸いです。

特別陳列 ―日本画家― 平桜和正の世界

七月二日(金)～二十七日(火)
(第4展示室)

金沢出身の日本画家・平桜和正氏は、主に身近な北陸や北国の風景を中心に、郷里の風土に強く根ざした作品を描いてきました。本展は、氏の代表作約二十五点を展示し、その画業の変遷をたどろうとするものです。

休館日

六月三十日(水)・七月一日(木)

石川県立美術館だより

第一八八号 平成十一年六月一日発行

〒九二〇―〇九六三 金沢市出羽町二番一号
TEL 〇七六(二三一)七五八〇
FAX 〇七六(二二四)九五五〇